

平成 20 年度 流通情報工学科 卒業論文要旨
トラック運送事業者に対するエコドライブ推進に関する研究

学籍番号：0523001 氏名：藍郷 なつき

指導教員：鶴田三郎教授 黒川久幸准教授

1. 序論

現在、わが国では地球温暖化に対する様々な対策がなされている。その対策の一つが、エコドライブである。しかし、エコドライブの実施は、まだ十分とはいえない。そのため、過去の調査において、デジタル式運行記録計(デジタコ)の利用実態に関する調査がなされたが、導入の阻害要因などの把握は十分とはいえなかった。

そこで、本研究では、トラック事業者がエコドライブを推進する際の問題点の把握とその改善策を提案することを目的とする。

2. アンケート内容と配布先の設定

アンケートは、荷主に対して抱えている問題、負担となる費用の問題、優遇税制などの制度の利用状況を聞く項目が中心の内容である。配布先は、地域の特性を見るために、18 都道府県のトラック運送事業者を対象とする。1 県あたり、70 のトラック事業者に配布する(全日本トラック事業者総覧 2006 を参考にする)ので、合計して、1260 のトラック事業者へアンケートを配布する。アンケート回収率は、管理者専用は 9.1%、ドライバー専用は 6.2%で、既存のアンケートと同程度の回収率であった。

3. 集計結果

エコドライブを行う上で抱えている問題点には、図 1 に示すように、道路・費用・荷主等に関する問題があることが明らかになった。

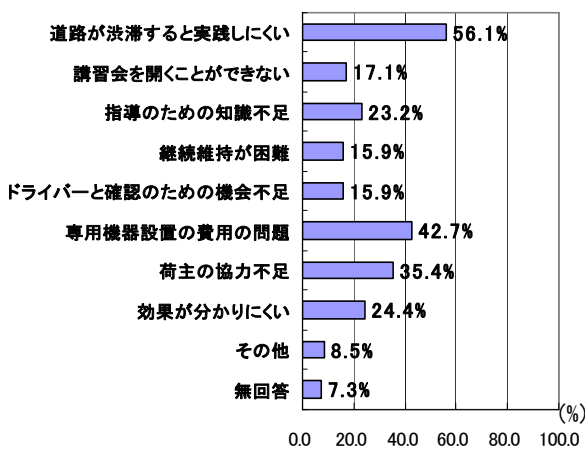


図 1 エコドライブにおける問題点

更に、道路の渋滞を問題としている事業者は、関東・中国・中部地方に多いことが分かった。また、図 2 に示すように費

用の問題では、専用機器購入費用やエコドライブに有効な車両の購入費用などが高い値を示した。そして、荷主の問題では、物流費のコスト削減を要求される、敷地内にドライバーの休憩室が作られていないなどが高い値を示した。

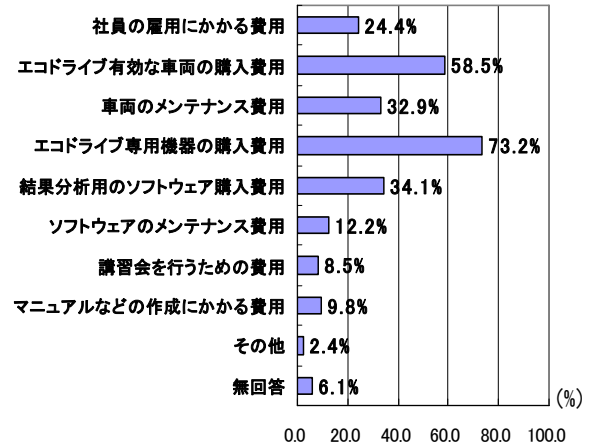


図 2 エコドライブの問題となる費用

4. 改善策の提案

改善策の一例として、費用の問題では、エコドライブにおける優遇税制や補助金、助成金制度の利用状況と関係があることが分かった。

中小のトラック事業者は、制度を利用していない事業者の従業者数別割合で、全体の約 80%を占めていた。制度を利用しない理由は、知らなかったという回答であった。なので、制度について正しく理解するよう、国や地方自治体は、中小のトラック事業者を中心に講習会などを開催する必要がある。

トラック事業者に講習会へ参加してもらうためには、定期的を開催することが有効である。また、講習会で学んだことを忘れないためにも、定期的に行う必要がある。エコドライブ講習会の参加頻度では、1ヶ月に1回参加できるという回答が全体の約 30%を占めており、最も多かったので、1ヶ月に1回位、優遇税制や補助金、助成金制度についての講習会を開催し、学ぶ機会を提供することで改善できると考える。

5. 結論

トラック運送事業者がエコドライブを実施する際の阻害要因を明らかにするために、郵送によるアンケートを実施した。そして、問題点の把握とその改善策の提案を行った。

キーワード：トラック運送事業者、エコドライブ、アンケート、問題点、改善策